

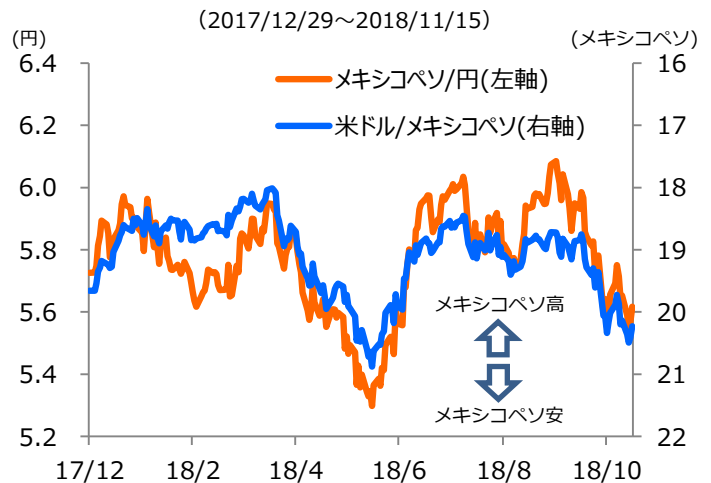


メキシコ -メキシコ中銀が今年3回目の利上げを実施-

POINT 強まるインフレ懸念に対応

メキシコ中央銀行(以下中銀)は11月15日に行われた金融政策決定会合において、今年に入り3回目の利上げを実施しました。利上げ幅は0.25%で、8.0%としました。利上げは、今年2月と6月以来で、利上げ幅は合計で0.75%となりました。政策金利が8%台になるのは2009年1月以来となります。これを受け、メキシコペソは、対円および対米ドルで共に1%弱の上昇となりました。

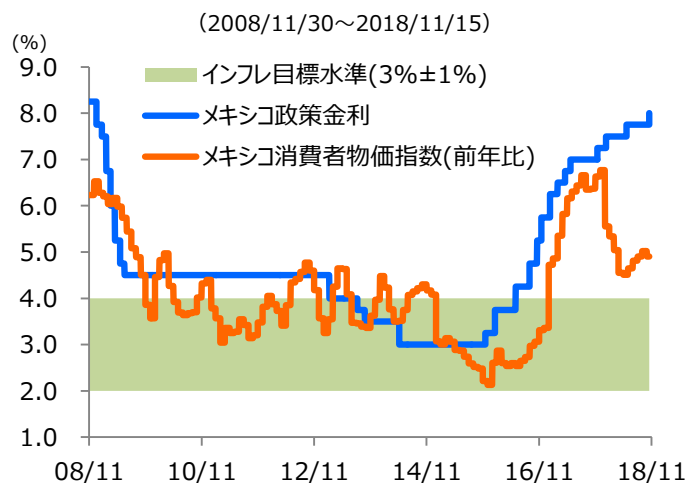
-メキシコペソの年初来推移-



POINT 今回の利上げの背景

年初は6.8%と高かったインフレ率は6月には4.5%まで低下し落ち着いていましたが、足元では緩やかに上昇し、10月は4.9%となっています。中銀の声明では今後、エネルギー関連コストの上昇とメキシコペソ安により、インフレ率を押し上げるリスクが高まったとして、ペソ安防止の対策も含めて利上げを行ったとしています。加えて声明では、ペソ安の一因として、メキシコシティ新空港の建設をロペス・オブラドール次期大統領が10月に中止したことを挙げています。中銀は新政権の政策運営がインフレを押し上げる恐れがあると指摘しており、新政権発足後も追加利上げを行う可能性を示唆しました。

-メキシコの政策金利とインフレ率の推移-



出所：Bloomberg

今後の見通し 新政権の政策を注視

今後のメキシコペソは、中銀のタカ派的な姿勢や、メキシコ10年国債利回りが9%台に達するなど高い金利水準が一定のサポート要因になると思われます。一方で、新空港建設中止に伴い新政権への不透明感が高まっており、12月の新大統領就任に向けた動きや、財政規律を守ると公約する新政権によって提出される12月15日公表予定の2019年度予算案の内容に注目が集まると思われますが、内容次第では、メキシコペソは不安定な動きとなる場面もあると想定されます。

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

資産運用のベストパートナー、だいわずみざん



大和住銀投信投資顧問

Daikin SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長金商第 353 号
加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会